

ことしもまた、新たな縁(えにし)を結ぶ会 '08 !

13:00

開会

総合司会 根岸親さん、福島容子さん

13:10-14:25 第1部「福祉と医療を中心に、社会保障のこれからを考える

～経済財政諮問会議の呪いから逃れるために～

元厚生労働大臣・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 尾辻 秀久さん
千葉県知事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 堂本 暁子さん
鳥取県南部町町長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 坂本 昭文さん
コーディネーターを兼ねて 高齢社会をよくする女性の会理事長・・・・・・ 樋口 恵子さん

14:25-15:05

♪ 「えにし結び名簿」を手に、席を離れての「えにし結びたい・む」 ♪

15:05-16:25 第2部「医療崩壊の真実」

産婦人科医の立場から・・・・・・・・・・医療の良心を守る市民の会設立発起人・打出 喜義さん
ナースの立場から・・・・・・・・・・・・・・・・日本看護協会会長・久常 節子さん
元厚生労働省局長+小児科医の母の立場から・・・・・・・・ 資生堂副社長・岩田喜美枝さん
がん患者の立場から・・・・・・・・・・・・・・・・読売新聞記者・本田麻由美さん
法律家の立場から・・・・・・・・・・・・・・・・弁護士・石川 寛俊さん
コーディネーター NHK チーフアナウンサー・・・・・・・・・・内多 勝康さん

16:30 昼の部(第1部・第2部)閉会

「日比谷グリーンサロン」に会場を移して第3部。第3部にご参加の皆さまは、お急ぎください。

16:30-17:20 第3部タバコの部・軽食タイム ⇒ 大急ぎで200の丸いすをならべて⇒

17:30-19:30 第3部・タバコの部「恋するようにボランティアを～優しき挑戦者たち～」

♥「2万人にひとり」が出会った・・・・・・・・ 相羽大輔さん・矢吹康夫さん・石井更幸さん
♫千葉の条例を支えた障害当事者たち・・・・・・・・・・・・・・・・ 植野 慶也さん
♣ハンディが重くても、愛する人と、故郷の町で・・・・・・・・ 田島 良昭さん
♥夢を運ぶ、ふわりの風・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 戸枝 陽基さん
❖帯広・十勝、町で暮らす、志のネットワーク・・・・・・・・ 門屋 充郎さん
*「十人十色」のさりげないケア・・・・・・・・・・・・・・・・ 安岡 厚子さん
♣命の輪をつなぐ自死遺児たち・・・・・・・・・・・・・・・・ 山口 和浩さん
☆フロアから・・・・・・・・ 「優しき挑戦者の部屋」にご登場のみなさん + 山本 ゆきさん
コーディネーター 大阪ボランティア協会事務局長・・・・・・・・ 早瀬 昇さん

第 1 部「福祉と医療を中心に、社会保障のこれからを考える

～経済財政諮問会議の呪いから逃れるために～

そもそもの始まりは、参議院自民党の総元締、しかも元厚生労働大臣の★尾辻秀久さん★の「えにし」の方々の心を揺さぶるメッセージでした。

以下は「えにし」のHP「医療福祉と財源の部屋」の尾辻さんのことばの抜粋です。

「経済財政諮問会議は、『医療費が上がるのは一向にかまわない。公費さえ上がらなければいい』と言いました。要するに本人負担分を上げろと言ったのです。絶対に許せません。小泉内閣のときは、財界関係者と学者が主導していました。厚生労働大臣のとき、経済財政諮問会議に社会保障費を総額抑制すべきと注文をつけられました。私は、社会保障費は必要な額を積み上げていくべきだと主張しました。」

「経済財政諮問会議は、国民負担が高まると経済の活力が失われると言いましたが、それでは国民負担率70%のスウェーデンはどうなのでしょう。経済的にも極めて活力ある国です。当時、経済財政諮問会議に反対することは非国民と呼ばれることでした。私ひとりが被告席に座らされているようなものでした。今ですから正直に言いますと、いつもポケットに辞表を入れておりました」

鳥取県南部町町長の★坂本昭文さん★は、志の縁結び係にメールをくださいました。

「感激し、共感し思わずメールしました。国民から直接選ばれた訳でもない諮問会議のメンバーに、年金や医療、介護、福祉といった社会保障制度の根幹を揺るがすような大切な課題について、政策を左右する権限は無いと思います。党内基盤が弱かった前小泉総理の知恵だと思いますが、市場原理主義、新自由主義などいずれも弱者に犠牲を強いるもので、行財政基盤が弱く高齢化の進む地方は今大変な困難に直面しているのです」

1987年、精神分裂病と呼ばれていた人びとが、日本で初めて顔と名前をカメラに晒して思いを語りました。タイトルは、「人間らしく生きたい」。テレビ史に残るこの番組のディレクターが、若き日の千葉県知事の★堂本暁子さん★でした。堂本さんの熱い思いと、当事者たちの堂本さんへの深い信頼があって、初めて実現した映像でした。その延長線上に、日本初の、障害者差別をなくすための「条例」、縦割りを排した政策を、白紙段階から市民とともに作りあげる「健康福祉千葉方式」が生まれました（くわしくは『プレーメンの挑戦』（ぎょうせい）をお読みください）。

その堂本さんが、参議院議員として国政に参加した経験も踏まえ、経済財政諮問会議が目指す社会保障「改革」の問題点について語ります。

コーディネーターをかねてのご登場は、NPO法人・高齢社会をよくする女性の会理事長の★樋口恵子さん★です。配布資料でご覧のように、昨年、「介護従事者の賃金に1人月額3万円を上乗せする『3万円法』の制定」を含む「介護人材確保のための緊急提言」を舛添厚生労働大臣に提出しました。「介護保険の猛母」の面目躍如です。

「介護職を“社会のヨメ”にしてはなりません」「介護労働者が幸せでなければ、介護される人は幸せになりません」という樋口恵子さんたちの呼びかけは全国に伝わり、「緊急提言」への署名は、あっという間に15万人を突破しました。

「介護保険は、介護人材から崩壊する」と心配する樋口さん。ユーモアと独創性にあふれる名調子の独演とは一味違ったコーディネーターぶりも見どころです。

第2部・濃縮シンポジウム『医療崩壊』の真実

「医療崩壊」という言葉が、メディアやインターネットの世界を賑わせています。日本の医療は崩壊しているのでしょうか？ しているとしたら、どのように？
第1部で語られた経済財政諮問会議の「社会保障費を総額抑制政策」は、医療にどのような陰を落としているのでしょうか？

産婦人科医の立場から分析して下さるのは **★金沢大学医学部 打出喜義さん★**

「恋するようにボランティア～優しき挑戦者たち」（ぶどう社）の第2章に、「過激な長老・日野原重明さん」とともに、「身に危険が降りかかることをいとわぬ、究極のボランティア・内部告発者」として登場しておられます。「内部告発者」というイメージとはほど遠い、愉快で優しいお医者さん。後輩たちに頼りにされ、患者さんに慕われています。

ナースの立場から発言して下さるのは **★日本看護協会長 久常節子さん★**

厚生省の看護課長をつとめた6年間を綴った『にわか役人奮闘記』には、「こんなことまで書いて大丈夫？」という、勇ましいエピソードが散りばめられています。日本の医療供給体制の3悪は、「多い（薬剤）」「少ない（ベッドあたりの看護職員数）」「長い（入院日数）」が持論です。慶応大学看護学部教授をへて、2005年から日本看護協会長。

★岩田喜美枝さん★は、厚生労働省雇用均等・児童家庭局長時代に母子保健課をバックアップして産婦人科・小児科医師の労働問題の解決に力をつくしました。その経験を話していただくとしたら、「小児科医の母でもあるのよ」とのこと。「当直明けの普通勤務など、医師の働き方は労働基準法に照らして問題が多すぎる」となどについて話してください。岩田さんの退職金のおかげで日本憲法に男女平等を盛り込んだベアテ・シロタ・ゴードンさんを描いた映画「ベアテの贈り物」が完成したことは、知る人ぞ知る話です。

がん患者の立場から論じて下さるのは **★読売新聞社会保障部記者 本田麻由美さん★**

1991年、読売新聞入社。社会保障部で医療・介護保険を担当していた2002年5月、乳がんが見つかりました。03年4月から闘病体験に基づく医療コラムを読売新聞朝刊でスタート。欧州NPOの「Cancer Enlightenment 2004 Special Award」などを受賞。「がんと私」というタイトルで、患者の視点でがん対策への提言を続けています。

法律家の立場から発言して下さるのは **★弁護士 石川寛俊さん★**

勝てそうかどうか、ではなく、「放っておくわけにはいかない」と思う相談を引き受けてしまうので、他の弁護士さんが断った被害や、敗訴判決を受けた事件までも引き受けてしまいます。それなのに、勝訴率が高く、医療裁判のあり方そのものを変えるような最高裁判決をいくつも勝ち取ったりして、弁護士さんたちに一目おかれています。石川さんに寄り添われて裁判をした被害者たちは、自分の裁判が終わった後も、医療を良くするための市民運動などに長く関わることが多いのは偶然ではないのでしょうか。

コーディネーターには、「生活ホットモーニング」のキャスターとして、この3月まで主婦たちの心をわしづかみにておられた **★NHK チーフアナウンサー 内多勝康さん★**

ディレクター志望だったのに、声が抜群によかったのでアナウンサーに引っぱり出されたという噂。医療や福祉の課題に深く、長くかかわる姿勢にファンは増える一方です。

第3部・タベの部・トークセッション

「恋するようにボランティアを～優しき挑戦者たち～」(ぶどう社)
に登場する優しき挑戦者のみなさんの日常風景です



施設を開放した雪仙ツ



駄菓子屋のき喫茶店「なちゅ」



興福寺の作物を露店販ツ



院生を魅了したアルビノの蒼崎たち



盛りつけは認知症の人たち自身ツ



ベラボ製「異性にモテるワザリ」



市川の診療所の待合室には……



ママのゆり小童のキッズボランティア



農業のづくりの助言も受けたい



ボランティアママの政治家へ



究極の自立支援法「のり」の日は……



条例成立と同時にママママ星園の拍手

★「えにし」出生の秘密★

福祉と医療・現場と政策の「新たなえにし」を結ぶ会は、2001年5月12日、ここ、プレスセンターで誕生しました。様々なハンディを逆手にとって突破口を切り開いている当事者、制度や予算の壁にぶつかりながら現場で奮闘しているスタッフ、つくった制度や政策がほんとうに役にたっているかどうか心配している行政官……。その方々が、朝日新聞を離れる ゆき、こと、大熊由紀子とご縁があるという、ただそれだけで集まってくださり、このとき出会った450人の方々の間に不思議な「えにし」が結ばれました。そして、毎年、「新たなえにしを結ぶ会」が開かれることになり、ことし、第8回を迎えました。

★「つどい」の3つのシキタリ★

その1：毎回、多彩、豪華な「えにし」の方が登壇していただきますが、どんなに有名な方でも、講演料ナシ。「素晴らしい参加者の前で話せる、それは、“権利”なのだ」という理屈からです。

その2：プロによるパソコン要約筆記、手話、磁気テープなどを用意する慣例です。詳しくは、「えにし結び名簿」の最終ページをご覧ください。だれもが参加できるように、介助者からは参加費はいただきません。

その3：席は籤引きです。「新たなえにし」を結ぶためです。**おみやげは「新たなえにし」**です。話の糸口になる「名札」と「えにし結び名簿」を用意しました。名簿は個人情報ですので小間使い、ゆきが、夜なべ仕事でつくりました。ミスがありましたら、お知らせくださいね。

★糸へんづくし★

胸元の名札の上下、このページの上下の縁飾りにお気づきになりましたか？拡大すると、「縁…絆…縁…絡…縁…紡…縁…編…縁…網…縁…繋…縁…繰…縁…糺…縁…紗」と、「縁」あいだに糸へんの字がはさまれています。NHKの「キラッといきる」でおなじみのグラフィックデザイナー、牧ロー二さんが、この集いのためにデザインしてくださいました。愉快的メッセージが添えられていました。「人間っていろんな糸へんが**絡**みあい、**紡**ぎあって、**編**まれているんですね。ネット（**網**）とか、**繋**がるとか。人と人の**絆**や**縁**に不思議なパワーを感じています。どうぞいつまでも**継続**していただけますように。**結び**……な～んちゃって」。糸へん飾りのついた名札は、ケースからはずして記念に、どうぞ(^_^)☆。

★「えにし」のホームページと「えにしメール」★

志をつなぐ道具として、ホームページ <http://www.yuki-enishi.com/>、「ゆきえにし」と入力して検索してくださると先頭に出てきます」と「えにしメール」と名づけたBCC同送メールを使い、大切なのにマスメディアでは報じられない、みなさまの活躍をお知らせしています。現場と政策、医療と福祉のあいだに横たわっている深くて広い河を埋めるためです。「優しき挑戦者の部屋」「物語・介護保険」が呼び物です p(^-^)_q

「えにし」の方は、いまは3000人ほどに広がりました。同姓同名が4組。転送してくださる方がかなりおられ、それを読んでいる方を含めると5000人くらいになりそうです。デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、イギリス、アメリカ、韓国にも「えにし」の方は広がっています。会費なし、義務もなし。資格は、この日本の医療や福祉を少しでもよくしようという志をもっておられることだけです。

★新しい「えにし」・なつかしい「えにし」の結び直し★

新しいえにしが生まれるだけでなく、ここでの再会が「えにしの結び直し」につながることもあります。手遅れ癌を抱えて一昨年、この会に参加した参院議員の山本孝史さんは、ここで再会した人びとに励まされて、国会で自身の癌を告白、それががん対策基本法の成立につながった、と生前、話してくださいました。総合司会の根岸親さんは堪能なポルトガル語を生かし、ブラジルからきたこどもたちを支援していますが、ここでの出会いがきっかけで、12月まで自殺対策支援センター・ライフリンク事務局で仕事をすることに。

★裏方ボランティアに感謝★

この冊子は、全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）の方々が、徹夜で印刷し、インクが乾くのを待って折り、早朝の列車で仙台から運んでくださいました。演壇のみなさま

の前の「前垂れ」、舞台の横看板、会場との交渉、講師の配布資料の印刷、名札の印刷、映像機材の設営、録音、録画……。プロの腕前と夢をもったCLCの9人のみなさんの力なしには、このつどいは実現できませんでした。みなさまとともに、こころからの感謝をささげたいとおもいます。